

第 1 号議案

令和 3 年度事業報告

令和 3 年度は、昨年引き続き新型コロナウイルスが全国的にまん延し、県下においても「緊急事態宣言」が 3 回も発令されるなど、対策に明け暮れた年でありました。

1 1 月に入り感染対策も功を奏し、落ち着いていたところですが、新たな変異株「オミクロン株」が世界的に猛威を振るい、年明けから感染者が急増しており未だ収まる気配がない状況となっています。今後においても、引き続き感染対策の強化を図っていく必要があります。

このような状況において、自動車業界への影響も多々出ており、特に半導体の不足による工場の稼働停止などにより、生産が追いつかず新車の納車遅れなども発生しています。

今年度の国内新車販売台数は前年度比 9. 5 % 減の約 4 2 1 万台でした。

普通車は 8. 2 % 減の約 2 6 6 万台で過去 2 番目の低水準、軽自動車は 1 1. 5 % 減の約 1 5 5 万台で 2 4 年ぶりの低水準となったところです。県下の新車販売台数も同様に、普通車・軽自動車とも対前年比で大幅に落ち込みました。

また、各種イベント、移動自粛なども徐々に緩和されてはいるものの、バス事業、タクシー事業においてはまだまだ需要の回復には至っておらず厳しい状況が続いており、また燃料価格の高騰もあり事業運営への影響も懸念されるところです。

このような中、東京オリンピックが開催され、福井県出身選手の活躍もめざましく 3 名の金メダリストが誕生したことは非常に明るい話題でありました。

北陸新幹線の工事も順調に進んでおり、福井駅、芦原温泉駅、越前たけふ駅舎の外観が姿を現し、8 月には、最後のコンクリート打設が完了し、金沢～敦賀まで約 1 2 5 k m が繋がりました。

道路においては、中部縦貫自動車道の油坂峠までの全線開通予定が令和 8 年春、冠山峠道路の開通予定が令和 5 年内と公表され、広域観光の活性化及び物流の効率化が見込まれます。

令和 3 年の福井県内の交通事故死者は、前年から 1 5 人減の 2 6 人となり過去最少となりました。しかし、薄暮時、オートバイ、道路横断中の事故は増えており、また飲酒運転による事故も 3 件発生していることなどから、引き続き事故防止対策に努めていく必要があります。

当自動車会議所においては、自動車関係業界の発展に少しでも寄与できるよう以下の主な事業に積極的に取り組んでまいりました。

記

1. 自動車重量税印紙等売捌事業

自動車検査登録印紙・自動車審査証紙・自動車重量税印紙・県税証紙等の売捌においては、少なくなりつつあるとはいえ、今期の扱い金額は約44億2千万円であり非常に多額の印紙を扱っていることから、事故やトラブルのないよう、また利用者サービスの向上に努めて業務を遂行してまいりました。

令和3年度の主な印紙4種の手数料収入は約3100万円で、前年度比96.7%、額では約100万円減となりました。一昨年と比較すると約750万円の減収となっているところであり、今後の推移をしっかりと見ていく必要もあります。

この要因は、コロナ禍での新車販売の低迷、納車遅れ、税制改正に伴う自動車取得税の廃止、環境性能割の導入そして販売促進策としての税率の軽減、OSS申請利用の増による影響と考えています。

特に、OSS申請の利用率は年間平均で50%を超えてきており、売捌事業は極めて厳しくなっていくものとたいへん憂慮しているところです。

しかし、厳しさを増す環境のなかでも、自動車の登録・検査等に係わる方々の利便性を向上させていくために何ができるかを常に考えて努力していくことが重要であります。

2. 自動車税申告審査等業務

福井県から業務委託を受けております自動車税申告書審査業務については、情報管理の徹底など行政業務の基本である適正かつ公正な執行や、納税者の立場にたって良質なサービスの提供を重点に掲げて申告書審査及び相談業務を行っております。

また、令和3年4月から、福井県との自動車税審査業務契約を見直し、福井県税事務所分室業務を全面的に受託しました。これに対応するため人員を含めて体制整備等の強化を図り、窓口サービスの低下を招かないように業務を遂行しています。

今後においても、福井運輸支局、福井県、関係団体とも連携しながら体制整備の充実を図り、窓口サービスに混乱のないように取り組んでまいります。

3. 福井県自動車会館の維持管理

福井県自動車会館は、昭和54年5月竣工以来42年が経過し、老朽化に伴う修繕箇所が年々増加していることもあり、昨年度に自動車会館建設等委員会を設置し、会館の老朽化に伴う対策を協議してきたところです。本年4月、10月にも同委員会を開催、その協議に基づき建物の安全性を確認するため耐震診断を実施し、その結果、比較的頑丈であるが耐震補強等工事が必要と診断されました。

耐震診断結果に基づく一部工事については安全性の問題もあり、前倒しにて実施したところです。

今後においても、引き続き老朽化が著しいヶ所等を含めたりノバージョンと耐震補強工事を実施すべく協議を重ねていく必要があります。

そのため、会館内の所属団体専務理事による専門部会も毎月開催し、その中で今後の方針・具体策などを詰めていくこととしています。

しかし、各団体等の諸事情・財政事情等も考慮しなければならず、課題も山積しており、今後も協議を継続して進めていくことが重要です。

4. 会議等の開催状況

(1) 専務会議等

福井運輸支局をはじめ関係行政機関や、各団体相互の情報交換・連絡調整並びに自動車会館の維持管理・諸行事の推進を図るため、定期的に専務会議等を開催しました。また、中部運輸局長、福井運輸支局長、自動車技術安全部長との懇談会も随時開催したところです。

(2) 道路及び交通運輸等諸問題検討懇談会

安全で快適なクルマ社会の構築、クルマと共生し豊かさが実感できる魅力ある社会の実現に資するため、これまで「道路及び交通運輸等諸問題検討懇談会」を開催してきましたが、コロナ禍の関係もあり多人数が出席する会議体であること及び要望集の取り纏め手法等の見直しが必要との判断から今年度の開催は見送ることとしました。

しかし、これまで培ってきた各道路等を所管する行政機関との関係も重視し、福井県道路所管担当課と調整を図り、「福井県と自動車業界との道路に関する懇談会」を個別に開催し、業界から道路に対する要望書の提出、意見交換を行いました。懇談会へはNHK、福井新聞、業界紙など多数の取材があり大きく取り上げて頂きました。

今後においては懇談会のあり方を含め、コロナ禍の中で何が出来るか、引き続き検討を重ねてまいります。

5. 交通事故防止等広報活動の推進

車社会の急速な進展と、これに伴う経済及び地域社会の変化に対応するため、自動車に関する諸情勢の早期把握に努める一方、会員団体及び関係先との緊密な連携を保持し、各種情報の収集及び伝達に努めました。

コロナ禍の関係もあり、各種会議は中止、書面開催・協議となったものもありましたが、11月には交通安全県民大会、12月には死亡事故多発により開催された交通死亡事故対策会議に出席、また3月の事故防止緊急対策会議はリモート出席しました。

県下の交通事故死者数は前年からは減少していますが、事故防止など関係機関等とも連携を強化していく必要があります。

6. 関係官公庁及び自動車関係団体等との連絡協調

日本自動車会議所専務理事会、福井県道路協会総会、福井県交通安全協会総会・理事会、福井県雪害対策協議会、福井市道路除雪会議、福井経済団体連合会責任者会などに積極的に参加し、また連絡を密にしてそれぞれの機関・団体等からの情報を自動車関係団体等へも周知しました。

7. 利用者サービス向上

当会議所の窓口対応にあたっては、さわやかでていねいな対応、笑顔を忘れずに、公正な印紙売捌業務の推進などを職場訓として業務にあたっておりますが、特に窓口においてはその時代に合った高い接客サービスが求められています。

しかし、顔なじみによる慣れや、業務のマンネリ化、または繁忙期など時として対応が雑になることも見受けられるため、職員相互のチェック体制を保ち、また月に一回定例会を開催し、事業運営の改善、効率化を図るための検討も随時行ってきたところです。

8. 自動車関係功労者福井県知事表彰制度の創設

福井県はいわゆるクルマ社会であり、通勤・レジャー・企業活動など何をするにおいても県民にとっては自動車が貴重な移動手段であり必需品であります。

また、様々な分野において県民の生活の維持、企業の経済活動の推進、観光需要の喚起などにも自動車業界は大きく貢献しており、またなくてはならない存在でもあります。

このように地域での貢献が大きいにも拘わらず、福井県においては、各業界の表彰制度はあるものの自動車業界に対する表彰制度が存在していなかったことから、福井県とも折衝を重ね、「福井県自動車関係功労者表彰要綱」を制定して頂き、福井県知事表彰の栄誉を賜ることとなりました。